

## 座談会記録

1. “農家の生活問題 - 人間尊重への道をさぐる - ”( 梶川静一・団野信夫・矢口光子・小山義夫・川井一之・長田満子・小山智士・司会 ) 41 頁、「農」 58、( 財 ) 農政調査委員会、1978 ( 昭和 53 年 ). 1  
〔転載・むらと人とくらし、4~45 頁、農村生活総合研究センター、1978 ( 昭和 53 年 ). 3〕
2. “コメント会”『ある生活改良普及員の記録 ( 日本の農業・あすへの歩み・121 )』、107~142 頁、( 財 ) 農政調査委員会、1978 ( 昭和 53 年 ). 10 ( 小川照子・神田三亀男・菊地和子・浜田陽太郎・居神トミコ・小山義夫・松浦竜雄・小山智士・司会 )
3. “むらと農業を再構築するために - 「生活を優先する」を揺るがない視点に - ”農業共済新聞、1418 号、全国農業共済協会、1980 ( 昭和 55 年 ). 11
4. “鬼石町研究集会をふりかえって”総合農学、30 巻 3 号、19~21 頁、1983 ( 昭和 58 年 ). 3
5. “高齢化問題へのアプローチ”農林統計調査、第 35 巻 11 号、2~15 頁、1985 ( 昭和 60 年 ). 11 ( 浅見薫・石川文武・櫻庭英悦・並木正吾・吉村秀清・司会 )
6. “21 世紀の果樹農業経営ビジョンと後継者を語る”、果実日本、第 42 巻第 1 号、34~45 頁、日本園芸農業協同組合連合会、1987 ( 昭和 62 年 ). 1 ( 五味正弘・松元藤雄・西山勇教・遠藤酸・司会 )
7. 『2,000 人の都市観、農業・農村観 ( 日本の農業 - あすへの歩み・174 )』、1~66 頁、( 財 ) 農政調査委員会、1990 ( 平成 2 年 ). 2 ( 猪爪範子・今村奈良臣〔司会〕・小川全夫・坂野百合勝・出島美代子・萩原孝子・本田浩次・小山義夫・小山智士・吉田俊幸 )
8. “総合農学科解散・再編のころ”総合農学、39 巻 2 号、3~16 頁、1992 ( 平成 4 年 ). 3 ( 林尚孝・中島紀一・尾崎繁・河又虎好・門間要吉・長崎明 )
9. “「総合農学」新しい時代にむけて”総合農学、39 巻 2 号、41~49 頁、1992 ( 平成 4 年 ). 3 ( 総合司会 )
10. 『これまでの普及・これからの普及 - 東北 3 県・農業改良普及員 O B の 40 年 - 、日本の農業 ( あすへの歩み )・197』、87 頁、( 財 ) 農政調査委員会、1996 ( 平成 8 年 ). 3 ( 渋谷幸造・加賀谷多吉・藤橋嘉一郎・狩谷昭男・大泉一貫・吉田俊幸・池本良教 )
11. “普及活動の継承と飛躍”、技術と普及、33 巻 6 号 ( 400 号 ) 28~49 頁、1996 ( 平成 8 年 ). 6 ( 小川祐子・里見洋司・田正男・深谷秀巳 )

## 学会・研究会

### [ 1 ] 一般発表

1. 農業労働の経営的研究・第 1 報 ( 菱沼達也と共同 )、総合農学研究会、1961 ( 昭和 36 年 ). 4
2. 農業労働の経営的研究・第 2 報 - 磯辺秀俊著『日本農家労働配分図説』の分析 - ( 菱沼達也と共同 )、総合農学研究会、1962 ( 昭和 37 年 ). 4
3. 埼玉県比企郡菅谷村植木山部落における養蚕の動向 ( 菱沼達也と共同 )、総合農学研究会、1963 ( 昭和 38 年 ). 4
4. 成田市豊住区南羽鳥部落における農民の生活調査・睡眠時間の分析 ( 菱沼達也と共同 )、第 12 回日本農村生活研究会大会、1964 ( 昭和 39 年 ). 11

5. 成田農民の稲作労働の分析・第1報(菱沼達也と共同) 総合農学学会、1965(昭和40年). 4
6. 成田農民の稲作労働の分析・第2報(菱沼達也と共同) 第13回日本農村生活研究会大会、1965(昭和40年). 11
7. 一農家の労働減少に対応する稲作栽培の変遷(菱沼達也と共同) 総合農学学会、1966(昭和41年). 4
8. 田植のしやすさ(菱沼達也・新井孝男と共同) 第14回日本農村生活研究会大会、1966(昭和41年). 11
9. 農民の主訴 - その家族内地位別分析 - 、総合農学学会、1967(昭和42年). 4(総合農学、15巻1号、39~40頁、1967(昭和42年). 11)
10. 田植共同作業の生活的背景 - 千葉県成田市北羽鳥の調査から - 、総合農学学会、1967(昭和42年). 8
11. 家事労働時間分析の一視点、第15回日本農村生活研究会大会、1967(昭和42年). 11
12. 豚の糞尿臭についての室内処理実験および実態調査(岸本定吉・森川・内山雄平) 総合農学学会、1968(昭和43年). 4(総合農学、第16巻1号、22頁、1968(昭和43年). 7)
13. 畑地かんがいと農民、総合農学学会、1968(昭和43年). 4(総合農学16巻1号、24頁、1968(昭和43年). 7)
14. 農家の生活と稲作のタイプ、第16回日本農村生活研究会大会、1968(昭和43年). 10
15. 一部落における生産組織化過程の実験的研究(菱沼達也・森川・細田友雄・横田正信・岸本定吉・横木清太郎・亀山謙治) 総合農学学会、1969(昭和44年). 4(総合農学、17巻1号、17~18頁、1969(昭和44年). 7)
16. 農民の稲作の型、総合農学学会、1969(昭和44年). 4(総合農学、17巻1号、18~19頁、1969(昭和44年). 7)
17. 一小規模農家における労働時間構成の推移、総合農学学会、1970(昭和45年). 4(総合農学、18巻1号、36頁、1970(昭和45年). 7)
18. 高冷地野菜地帯における先進経営発展過程の分析、総合農学学会、1971(昭和46年). 4(総合農学、19巻1号、28頁、1971(昭和46年). 6)
19. 経営発展の原動力は何か - 長野県野辺山の農家を中心に - 総合農学学会・月例研究会報告、1971(昭和46年). 5(総合農学、19巻1号、36頁、1971(昭和46年). 6)
20. 小規模稲作農家の生活時間分析、農業経営研究会、1972(昭和47年). 4(農業経営研究、18、16~17頁、1972(昭和47年). 10)
21. 会津農業と農家生活の現状と問題点、総合農学学会・月例研究会報告、1972(昭和47年). 9(総合農学、20巻2号、63~64頁、1972(昭和47年). 12)
22. 農家生活時間構成の推移(1) - 戦前および戦後昭和20年代の諸調査から - 、総合農学学会、1973(昭和48年). 4(総合農学、21巻2号、28頁、1973(昭和48年). 6)
23. 農家生活時間調査法の一提案、第20回日本農村生活研究会大会、1974(昭和49年). 10
24. 農家食生活の構造と変動 - 成田市農家の献立型分析、総合農学学会、1975(昭和50年). 4(総合農学、23巻1号、26頁、1975(昭和50年). 9)
25. 農家生活構造の動態的把握の手法、総合農学学会、1976(昭和51年). 4(総合農学、24巻

- 2号、40頁、1976(昭和51年).9)
26. 地域主体の確立と農村生活環境整備の展開、総合農学学会、1977(昭和52年).4(総合農学、25巻1号、35~36頁、1977(昭和52年).7)
  27. 献立型手法による農家食生活の変容分析(小山智士と共同)、第25回日本農村生活研究会大会、1977(昭和52年).10
  28. 農家生活リズムと献立型による食生活分析、第1回「食」学研究会(栄養改善学会)、1977(昭和52年).11
  29. 農村婦人集団による“地域づくり”の分析 - 山口県生活改善実行グループ4事例調査による - 総合農学学会、1978(昭和53年).4(総合農学、26巻1号、36~37頁、1978(昭和53年).9)
  30. 農協生活活動の展開と生活指導員の役割(橋本恵次と共同)、第27回日本農村生活研究会大会、1979(昭和54年).10
  31. 北海道畑作地帯における地域づくり活動の展開、第9回日本農村生活研究会東北支部研究会、1991(昭和56年).9
  32. 北海道畑作地域の村づくり、総合農学学会、1982(昭和57年).5
  33. 農家高齢者の日常生活上の役割と今後の課題(大塚明子・田部浩子と共同)、第31回日本農村生活研究会大会、1983(昭和58年).10
  34. 農村高齢者の労働能力解明と役割開発 - 第1報 - (加藤克明・櫻庭英悦と共同)、総合農学学会、1984年度春季大会、1984(昭和59年).5(総合農学、32巻1号、30頁、1984(昭和59年).12)
  35. 農村高齢者の労働能力解明と役割開発 - 第2報 - (加藤克明・櫻庭英悦・平藤雅之と共同)、総合農学学会、1985年度春季大会、1985(昭和60年).5
  36. 農村高齢者の労働能力解明と役割開発 - 第3報 - (加藤克明・村野圭市と共同)、総合農学学会、1986年度春季大会、1986(昭和60年).5(総合農学、34巻2号、34頁、1987(昭和62年).3)
  37. 農村高齢者の労働能力解明と役割開発 - 第4報 - (村野圭市・川手督也と共同)、総合農学学会、1987年度春季大会、1987(昭和62年).5(総合農学、35巻1号、32頁、1987(昭和62年).12)
  38. 農村高齢者の労働能力解明と役割開発 - 第5報 - (村野圭市・川手督也と共同)、総合農学学会、1988年度春季大会、1988(昭和63年).5(総合農学、36巻1号、41~42頁、1988(昭和63年).12)
  39. 集落農場化活動の現局面 - 秋田県南の事例から - 総合農学学会、1989年度春季大会、1989(平成元年).5(総合農学、37巻1号、29~30頁、1989(平成元年).12)
  40. 農村高齢者の労働能力解明と役割開発 - 第6報 - (佐藤百合香・安中誠司・佐藤了と共同)、総合農学学会、1990年度春季大会、1990(平成2年).5(総合農学、38巻1号(97号)、29頁、1990(平成2年).12)
  41. 農村高齢者の労働意欲の特質と課題 - 秋田県峰浜村を事例として -、(\*佐藤百合香・安中誠司・佐藤了・神谷一夫と共同)、東北農業研究、第43号、331~332頁、1990(平成2年).12

42. 地域農業振興における高齢者の役割 - 秋田県峰浜村の事例 -、( \* 佐藤百合香・安中誠司・神谷一夫・佐藤了と共同 ) 第 26 回東北農業経済学会大会、1990 (平成 2 年). 8 (東北農業経済研究、10 巻 1・2 号、68 頁、1991 (平成 3 年). 3)
43. 農村活性化に果たす女子高齢者の活動条件 ( \* 佐藤百合香・安中誠司・神谷一夫・佐藤了と共同 ) 日本農村生活研究会東北支部第 18 回支部研究会、1990 (平成 2 年). 9 (研究報告書、42 ~ 45 頁)
44. 伝統市と地域社会農業 (中島紀一・川手督也・原珠里と共同) 総合農学学会、1991 年度春季大会、1991 (平成 3 年). 5 (総合農学、39 巻 1 号 [99 号]、42 頁、1991 (平成 3 年). 12)
45. 津軽・リンゴ主体村における台風被害と対応、総合農学学会、1992 年度春季大会、1992 (平成 4 年). 5
46. (ポスター・セッション) 農家の生活リズム、第 40 回記念日本農村生活研究会大会、1992 (平成 4 年). 10
47. 農村地域組織の動向についての一考察 - 山形県天童市の集落調査から - (久保美紀・国井忠義と共同) 総合農学学会、1994 年度春季大会、1994 (平成 6 年). 5
48. (ポスター・セッション) 西のむら・東のむら - 九州・東北の農村地域組織づくりの活動 -、日本農村生活学会第 43 回大会、1995 (平成 7 年). 10
49. (ポスター・セッション) 福祉理念による地区活動の展開過程 - 山形・「中川福祉村」の 20 年 -、日本農村生活学会第 44 回大会、1996 (平成 8 年). 10

## [ 2 ] シンポジウム報告・コメント・座長

### 1 ) シンポジウム報告

1. 山陽農村における生活問題 (シンポジウム・「農村の混住化と農家の生活問題」座長 久保良雄・好本照子、報告者 竹井文子・中村桂・奥田道大) 第 23 回日本農村生活研究会大会、1975 (昭和 50 年). 10
2. 農民の心情と集団化 (シンポジウム・「農漁業再建の方向と協同組合」) 協同組合経営研究所 第 16 回研究総会シンポジウム、1981 (昭和 56 年). 12 (協同組合経営研究月報 344、10 ~ 13 頁、1982 (昭和 57 年). 5)
3. 農村生活研究の現状と課題 (シンポジウム・「北海道における農村生活問題と農村活性化の課題」) 北海道農村生活研究会設立大会、1990 (平成 2 年). 9 . 22 (北海道農村生活研究会報 第 1 号、30 ~ 33 頁、1990 (平成 2 年). 12)
4. 農村生活研究のあり方について - 農村生活研究が取り組むべき今日的課題について -、日本農村生活研究会・第 4 回活動方向検討会、於・共立女子大 4 号館、1994 (平成 6 年). 2 . 26
5. 昭和期における農村生活変容の軌跡 (シンポジウム・「戦後農村生活史を振り返る - 地域における婦人活動を中心に - 」) 1994 年度総合農学学会春季大会 (総合農学、42 巻 2 号、12 ~ 15 頁、1995 . 3) 於・明治大学大学院、1994 (平成 6 年). 5 . 28
6. 農村女性の自立 - 家と農との挑戦 - (シンポジウム・「農村女性の新しい価値観と行動 - 農業・農村の変革のために - 」) 第 42 回農村生活研究会大会、1994 (平成 6 年). 10 (農村生活研究、39 巻 2 号、18 ~ 22 頁、1995 (平成 7 年). 6)

7. 生活着の創る農とくらし (シンポジウム・「農村の暮らし - 宮城県田尻町の農家生活を中心に - ) 1996 年度宮城学院女子大学生生活科学研究所・公開シンポジウム、宮城学院女子大学講義棟 C-203、1996 (平成 8 年). 11 . 16

## 2 ) シンポジウム・コメント

1. シンポジウム・これからの農村生活と婦人の役割、「富永静枝報告・農家婦人の農外就労 - その動向と問題 - へのコメント」、第 27 回日本農村生活研究会大会、1980 (昭和 55 年). 10 (農村生活研究、25 巻 1 号、54~55 頁、1981 (昭和 56 年). 5

2. シンポジウム・食品産業の動向と国民の食生活「総括コメント」1983 年度総合農学学会、1983 (昭和 58 年). 5 (総合農学、32 巻 2・3 号、18~20 頁、1984 (昭和 59 年). 3)

3. シンポジウム・混住地域での暮らしと主婦農業集団「小田原集會に参加して(3)」(総合農学、32 巻 2・3 合併号、59~60 頁、1985 (昭和 60 年). 3)

4. シンポジウム・農家の食卓 - その現状と課題 -、「黒澤美智子報告・農家の食卓における米の位置づけへのコメント」、第 33 回日本農村生活研究会大会、1985 (昭和 60 年). 10 (農村生活研究、30 巻 2 号、34~35 頁、1986 (昭和 61 年). 6

5. シンポジウム・柳生の里の農業振興を考える - 奈良東部農協の取組みから - (総合農学、33 巻 2・3 合併号、59 頁、1986 (昭和 61 年). 3)

6. シンポジウム・農業・農村の多面的価値の共有 - いま、農村のくらしが面白い -、日本農村生活研究会第 40 回記念大会、1992 (平成 4 年). 10 . 30 (農村生活研究、37 巻 1 号、43~44 頁、1993 (平成 5 年). 2)

## 3 ) シンポジウム座長

1. シンポジウム・会津農家の生活と経営、1972 年度総合農学学会、1972 (昭和 47 年). 8 (総合農学、20 巻 2 号、2~26 頁、1972 (昭和 47 年). 12)

2. シンポジウム・農村婦人の労働問題、第 25 回日本農村生活研究会大会、1977 (昭和 52 年). 10 (農村生活研究、22 巻 1 号、30~44 頁、1978 (昭和 53 年). 5)

3. シンポジウム・農村高齢者の生活創造に向けて、第 31 回日本農村生活研究会大会、1983 (昭和 58 年). 10 (農村生活研究、28 巻 1 号、21~50 頁、1984 (昭和 59 年). 5)

4. シンポジウム・農村高齢者の生活自立、第 32 回日本農村生活研究会大会、1984 (昭和 59 年). 10 (農村生活研究、29 巻 2 号、13~46 頁、1985 (昭和 60 年). 6)

5. シンポジウム・新しいライフ・スタイルを求めて - 今、農村生活の中で生まれつつあるもの - 策 35 回日本農村生活研究会大会、1987 (昭和 62 年). 10 (農村生活研究、32 巻 2 号、6~42 頁、1988 (昭和 63 年). 6)

6. シンポジウム・新たな集落営農の展開と農協の土地利用調整、東北農業経済学会・第 26 回大会、1990 (平成 2 年). 8 (東北農業経済研究、第 10 巻第 1・2 号 (通巻 20・21 号) 1~62 頁、1991 (平成 3 年). 3)

7. シンポジウム・東北の近未来型農業のための技術開発の現状と課題 (うち、2 大豆・小麦を中心とした省力、低コスト水田輪作方式のパートのみ) 平成 3 年東北地域農林水産業研究成果発表会、1991 (平成 3 年). 7 (東北農業研究、別号、第 4 号、106 頁、東北農業試験研究協議会、1991 (平成 3 年). 12)

8. 『営農試験』から農民主導の『むらおこし』までの経験に学ぶ研究会、東北農業試験場、1993

- (平成3年). 3. 29 (「東北農業経営・農村計画研究資料」 13、1993 (平成5年). 12)
9. シンポジウム・新しい農業者像とそれに対応した農業技術の研究開発 (うち 1. 「農業者像の変容と技術開発の課題 - 水田農業を中心として - 」のパートのみ) 平成5年度東北地域農林水産業研究成果発表会、1993 (平成5年). 1 (「新しい農業者像とそれに対応した農業技術の研究開発・シンポジウムの記録」、3~22 頁、農林水産省東北農業試験場、1993 (平成5年). 12)